

- 被害防止計画の作成数、特徴等  
平成29年9月現在で、管内24市町村のうち23市町村で被害防止計画を策定している。那賀町では県域を越え隣接する高知県香美市と連携して取り組みを進めている。また、佐那河内村と神山町が2町で連携、牟岐町、美波町、海陽町が3町で連携した計画を策定している。  
被害の大きい獣種は、イノシシ、シカ、ニホンザルの順で、これら3獣種で被害の9割を占める。対策としてはシカ、イノシシについては侵入防止柵の整備と個体数管理、ニホンザルについてはモンキードックや花火による追い払い、テレメリーを用いた群管理とそれを基にした個体数管理、電柵などの侵入防止柵の整備などが主体となっている。
- 事業効果の発現状況  
地域の推進体制の整備については、関係者の連携が密になり、より正確な被害や個体数の情報収集が可能となった。被害防止効果については、シカ、イノシシを対象に侵入防止策を整備したところは、捕獲との相乗効果もあり非常に高い効果がみられ、サルについても電気さくらの整備や捕獲の促進、追い払いなどの総合的な被害防止対策に取り組む集落の育成により、被害軽減効果が現れている。侵入防止柵については、効果を持続するための維持管理と、近隣で新たな被害が発生に注意する必要がある。有害捕獲ではまた、ICTを活用した捕獲ワナの導入が行われ、人材育成については、徐々にではあるが新たな狩猟者が育成されるなど捕獲にも積極的な取り組みが行われている。
- 被害防止計画の目標達成の状況  
今回評価を実施した12協議会において、被害金額及び被害面積の目標について6協議会で概ね達成、6協議会で両目標ともに達成率70%に達していなかった。  
野生鳥獣による被害は、年による変動があるほか、正確な被害情報の把握が困難であり、さらには小さな集落が点在する急峻な山間部ではその傾向は顕著である。  
事業を実施する中で、これまで被害が確認されていなかった地域や品目での被害の発生によって、目標達成が妨げられている状況が見受けられる。  
このため、今後対策を講じる中で、現在被害が発生しておらず対策を講じていない集落で被害発生を未然に防ぐためにも、関係者間の連携を密にし、情報収集とその共有を的確に行っていく。
- 各事業地区における被害防止計画の進捗状況

①勝浦町

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額				被害面積					
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率		
勝浦町有害鳥獣対策協議会	全域	H26	シカ イノシシ	大型捕獲檻の導入	15基	協議会事務局勝浦町が管理、勝浦町地区猟友会へ貸出	H27.3.31	100%	捕獲檻の整備により、捕獲頭数が増加した。捕獲檻設置地域では、鳥獣による農作物被害が軽減した。	2,445千円	2,201千円	13,664千円	0%	19.2ha	15.3ha	2,445ha	430%	ワナ整備により捕獲頭数が増加し、シカ、イノシシによる農作物への被害軽減に効果があった。平成28年度の捕獲檻の導入によって、ワナ整備による捕獲圧は十分整った。鳥獣侵入防止柵の整備によって、整備した地域においては、鳥獣被害がなくなった。	捕獲檻の導入及び侵入防止柵の整備により、被害面積は減少しており目標を達成している。一方、被害単価の高い果樹でのシカの被害が増加したため被害金額は増加しており、侵入防止柵の整備や有害鳥獣捕獲を継続する必要がある。
			サル	中型捕獲檻の導入	10基	協議会事務局勝浦町が管理、勝浦町地区猟友会へ貸出	H27.3.31	100%											
			シカ イノシシ サル	センサーカメラの導入	10基	協議会事務局勝浦町が管理	-	-											
			シカ イノシシ サル	研修会参加	2回	-	-	-											
	坂本黄檗地区	H27	シカ イノシシ サル	捕獲檻の導入	5台	協議会事務局勝浦町が管理、勝浦町地区猟友会へ貸出	H28.3.28	100%	捕獲檻の整備により、捕獲頭数が増加した。捕獲檻設置地域では、鳥獣による農作物被害が軽減した。	2,445千円	15.3ha	2,445ha	430%						
			シカ イノシシ サル	捕獲活動への役務要請に対する賃金	3回	-	-	-											
	与川内地区	H28	シカ イノシシ	捕獲檻の導入	4台	協議会事務局勝浦町が管理、勝浦町地区猟友会へ貸出	H29.3.15	100%	捕獲檻の整備により、捕獲頭数が増加した。捕獲檻設置地域では、鳥獣による農作物被害が軽減した。	2,445千円	15.3ha	2,445ha	430%						
	坂本黄檗地区	H28	シカ イノシシ	鳥獣侵入防止柵	ネット柵 1,300m	協議会事務局勝浦町が管理	H29.3.15	100%	整備地域において、シカ、イノシシの被害が無くなった。										
	坂本黄檗地区				ネット柵 1,200m			100%											
	生名地区				ネット柵 750m			100%											
与川内地区			ネット柵 1,900m		100%														

5 第三者の意見 意見者:徳島県立農林水産総合技術支援センター 資源環境研究課長 辻雅人

コメント	シカの被害面積が減少しているにもかかわらず、被害金額が大幅に増加している。原因の分析が必要である。捕獲頭数も増加しているとのことだが、実数の記載がなく評価が難しい。鳥獣侵入防止柵の有効性は確認できていることから、今後も継続実施を期待する。
------	---

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				事業実施主体の評価	都道府県の評価									
										被害金額		被害面積												
										現状値	目標値	実績値	達成率			現状値	目標値	実績値	達成率					
上勝町鳥獣害防止対策協議会	上勝町内全域	H26	シカ、イノシシ、サル、ノウサギ、カラス、カワウ、キジバト	協議会の開催	2回					関係機関との連携が密になり、より迅速かつ正確に個体数情報を収集することが出来た。また、「狩猟期間中においても捕獲賞金を支出」する政策を継続し、効果がでている。	11,290千円	7,847千円	6,776千円	131%	24千円	16千円	2千円	285%	関係者との連携により、迅速で適切な対応をすることが出来た。これにより、上勝町の営農者の意欲向上につながった。  被害防止計画に基づき高鈴、福原両猟友会の全面的協力により捕獲班単位の一斉捕獲、狩猟期間におけるシカのみでの買上金の支出、隣接市町村との連携捕獲を実施し捕獲圧をあげることで、一定量の捕獲頭数を確保し、被害軽減の効果を見た。H26以降は捕獲頭数が減少傾向にあることから、個体数自体の減少が考えられることから、今後も猟友会との連携を密にし、継続的に事業を実施する。また、集落周辺における捕獲はワナが有効であるため、特に農業者等への狩猟免許取得を継続的に推進する。  サルは、捕獲頭数は多くないが、群れでの行動により増加する可能性も考えられるので、調査を実施し、被害の拡大を防止する。  カラスの大型捕獲檻を導入して以降、一定の捕獲数があることから、狩猟者を確保するため、継続的に推進する。					
		H27	シカ、イノシシ、サル、ノウサギ、カラス、カワウ、キジバト、ヒヨドリ	有害鳥獣捕獲狩猟免許取得推進	取得推進 4回	協議会より、高鈴猟友会及び福原猟友会へ依頼	-	-	有害捕獲協力により1年間でシカ : 765頭(+63) イノシシ : 62頭(+14) サル : 24頭(+8) カラス : 699羽(-6)を捕獲した。(前年比較)															
		H28	カラス	カラス捕獲活動	捕獲活動 182日	協議会より、高鈴猟友会へ依頼	-	-	猟友会員による免許取得の推進により新たに狩猟者(捕獲班員)7名を育成した。															
全域	全域	H26	シカ、イノシシ、サル、ノウサギ、カラス、カワウ、キジバト、ヒヨドリ	有害鳥獣捕獲狩猟免許取得推進	取得推進 4回	協議会より、高鈴猟友会及び福原猟友会へ依頼	-	-	有害捕獲協力により1年間でシカ : 681頭 イノシシ : 51頭 サル : 19頭 カラス : 368羽 ウサギ : 6頭を捕獲した。	猟友会員による免許取得の推進により新たに狩猟者(捕獲班員)3名を育成した。														
											カラス	カラス捕獲活動	活動捕獲 183日	協議会より、高鈴猟友会へ依頼	-	-	猟友会員による免許取得の推進により新たに狩猟者(捕獲班員)7名を育成した。							
											サル	サル捕獲檻	1基	上勝町鳥獣害防止対策協議会	-	-								
		H27	シカ、イノシシ、サル、ノウサギ、カラス、カワウ、キジバト、ヒヨドリ	有害鳥獣捕獲狩猟免許取得推進	取得推進 4回	協議会より、高鈴猟友会及び福原猟友会へ依頼	-	-	有害捕獲協力により1年間でシカ : 624頭 イノシシ : 37頭 サル : 9頭 カラス : 567羽 ウサギ : 2頭を捕獲した。	猟友会員による免許取得の推進により新たに狩猟者(捕獲班員)7名を育成した。														
											カラス	カラス捕獲活動	活動捕獲 182日	協議会より、高鈴猟友会へ依頼	-	-	猟友会員による免許取得の推進により新たに狩猟者(捕獲班員)7名を育成した。							
											サル	サル捕獲檻	1基	上勝町鳥獣害防止対策協議会	-	-								
H28	シカ、イノシシ、サル、ノウサギ、カラス、カワウ、キジバト、ヒヨドリ	有害鳥獣捕獲狩猟免許取得推進	取得推進 4回	協議会より、高鈴猟友会及び福原猟友会へ依頼	-	-	有害捕獲協力により1年間でシカ : 624頭 イノシシ : 37頭 サル : 9頭 カラス : 567羽 ウサギ : 2頭を捕獲した。	猟友会員による免許取得の推進により新たに狩猟者(捕獲班員)7名を育成した。																
									カラス	カラス捕獲活動	活動捕獲 182日	協議会より、高鈴猟友会へ依頼	-	-	猟友会員による免許取得の推進により新たに狩猟者(捕獲班員)7名を育成した。									
									サル	サル捕獲檻	1基	上勝町鳥獣害防止対策協議会	-	-										
全域	全域	H26	シカ	鳥獣被害防止施設(柵)設置管理指導	1日*4人 *(3地区)	上勝町鳥獣害防止対策協議会	-	-	要望箇所について本町に一番適した鳥獣被害防止施設(防護柵)の設置を行い、鳥獣被害減少に効果があった。									過疎化、高齢化が進む現状の中、普及すべき鳥獣被害防止施設(防護柵)を経済性、施工性等総合的に検討し選定されており、集落住民の評判も良い。						
		H27	イノシシ	-	-	-	-	-																
		H28	-	-	-	-	-	-																
若生地区	若生地区	H26	シカ	防護ネット設置(網目5cmダイナミック繊維入り)	L=1,200m	若生地区代表 奥崎 芳子	H27.3.17	100%	被害防止施設設置前と比較シカ(香酸柑橘・野菜)、イノシシ(水稲)の被害が激減した。また、事業実施は、地区ぐるみで①設置事前点検②対策協議③地区関係者全員による防護柵設置作業としたため、苦勞も多かった分、施設に対する愛着心が芽生えるとともに地区の共同作業によるコミュニティも再生され地区再生の一翼を担っている。								整備集落ではシカ(香酸柑橘)、イノシシ(水稲)の被害が激減した。効果を持続させるために、集落住民が主体となってメンテナンスを継続しつつ、より効果的なメンテナンス方式等の情報交換も各集落間で行われており集落内外で新たなコミュニティも生まれ、有害鳥獣対策事業により集落再生効果も発揮している。							
		H26	イノシシ	防護ネット設置(網目5cmダイナミック繊維入り)	L=2,300m	柳谷地区代表 柳谷 政照	H27.3.17	100%																
西中地区	西中地区	H26	シカ	防護ネット設置(網目5cmダイナミック繊維入り)	L=1,600m	西中地区代表 鎌田 吉男	H27.3.17	100%																
全域	全域	H27	シカ(成獣)	有害捕獲 成獣:8,000円 成獣:4,000円 幼獣:1,000円	563頭	-	-	-	シカの捕獲頭数は前々年比で約25%の減少であった。										有害鳥獣の捕獲頭数は年々減少傾向ではあるが、被害金額についても概ね減少傾向にあることから、個体数自体の減少が考えられる。引き続き捕獲体制及び防除体制を継続していくとともに、新たに出てくるであろう被害地域に対する迅速かつ、適切な施策を整え被害拡大の防止に努める必要がある。					
			シカ(幼獣)		40頭	-	-	-																
			イノシシ(成獣)		38頭	-	-	-	イノシシの捕獲頭数については前々年比で約45%の減少であった。															
			イノシシ(幼獣)		12頭	-	-	-																
			サル(成獣)		15頭	-	-	-	サルの捕獲頭数については前々年比の3割の減少であった。															
			サル(幼獣)		2頭	-	-	-																
全域	全域	H28	シカ(成獣)	有害捕獲 成獣:8,000円 成獣:5,000円 幼獣:1,000円	531頭	-	-	-	どの個体も捕獲数は減少してはいるが、被害額についても減少傾向にあることから、個体数自体の減少が推測されることから、継続していくことでさらなる効果が見込める。															
			シカ(幼獣)		22頭	-	-	-																
			イノシシ(成獣)		23頭	-	-	-																
			イノシシ(幼獣)		5頭	-	-	-																
			サル(成獣)		7頭	-	-	-																
			サル(幼獣)		1頭	-	-	-																

5 第三者の意見 意見者:徳島県立農林水産総合技術支援センター 資源環境研究課長 辻雅人

コメント	防護ネットの設置と継続的な捕獲により、シカとイノシシの被害が減少しており、対策の効果が表れている。また、毎年新たな狩猟者を育成していることも評価できる。引き続き対策の実施を期待する。サルについては、捕獲だけでなく、被害を及ぼしている群れの生息実態を踏まえた対策が必要と考える。
------	--

③佐那河内村、神山町

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	都道府県の評価	
										被害金額				被害面積						
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率			
佐那河内神山地域 鳥獣害防止広域対策協議会	全域	H26	サル、イノシシ、シカ、カラス、カワウ、サギ類、タヌキ、ハクビシン、アライグマ	協議会の開催	1回	-	-	-	両町村の連携が密に成り、より正確に被害状況を把握できた。	12,940千円	9,050千円	9,670千円	84%	4千円	3千円	3千円	101%	情報を元に、今後最善の対策に取り組める。  シカ、イノシシは継続した捕獲を続けており、被害の軽減に繋がっている。今後も継続した捕獲に努め被害の軽減を図る。  サルの捕獲は檻の導入など捕獲数が増やすことができたが、まだ多くの被害報告がなされているため今後も継続した捕獲に努める。  サル群の追跡調査を行うことで、群れの行動範囲を把握し、被害の発生時期について確認することができた。このことでより効率良く対策を進める。  サル、カワウなどの追い払いを行うことで一定の被害軽減が確認できた。 今後は住民が率先して行えるよう推進を進める。  引き続き実施隊員の対策技術や知識を高めると共に、効果的な対策を進めていく。  圃地により合った対策を進めたため被害の軽減が図れた。 住民が定期的に見回りを行っており今後も継続する。  圃地により合った対策を進めたため被害の軽減が図れた。 住民が定期的に見回りを行っており今後も継続する。  圃地により合った対策を進めたため被害の軽減が図れた。 住民が定期的に見回りを行っており今後も継続する。  圃地により合った対策を進めたため被害の軽減が図れた。 住民が定期的に見回りを行っており今後も継続する。  圃地により合った対策を進めたため被害の軽減が図れた。 住民が定期的に見回りを行っており今後も継続する。	侵入防止柵の整備、捕獲檻の設置により、被害面積は減少しており目標を達成している。また被害額も減少しており、目標をほぼ達成している。  一部鳥獣の被害面積が増加していることから侵入防止柵の整備や有害鳥獣捕獲を継続して行い、被害の拡大を未然に防ぐ必要がある。	
		H27	サル、イノシシ、シカ、カラス、カワウ、サギ類、タヌキ、ハクビシン、アライグマ	協議会の開催	1回	-	-	-												
		H28	サル、イノシシ、シカ、カラス、カワウ、サギ類、タヌキ、ハクビシン、アライグマ	協議会の開催	1回	-	-	-	-											
	全域	H26	サル	囲いワナの導入	2基	協議会事務局、佐那河内村で管理	H27.2.13	100%	捕獲檻の整備を行い、捕獲圧を高めた3年間で											
			サル	くりワナの導入	5基	協議会事務局、佐那河内村で管理	H27.2.3	100%	シカ:525頭 イノシシ:589頭											
			サル、イノシシ、シカ	猟犬追跡端末の導入	6基	協議会事務局、佐那河内村で管理	H26.12.19	100%	サル443頭を捕獲した。											
		H27	サル	捕獲檻の導入	1基	協議会事務局、神山町で管理	H28.3.1	100%												
			サル	捕獲用グローブの導入	2基双	協議会事務局、佐那河内村と神山町で管理	H28.3.1	100%												
			サル	遠隔確認カメラの導入	3基	協議会事務局、神山町で管理	H29.3.3	100%												
			サル	捕獲檻遠隔操作システムの導入	1基	協議会事務局、神山町で管理	H28.12.21	100%												
	H28	サル	捕獲檻の導入	8基	協議会事務局、佐那河内村と神山町で管理	H29.3.3	100%													
	全域	H26	サル、シカ、イノシシ	指導者の育成	3人	-	-	-	モンキードッグと飼い主が参加し、年1回合同訓練を行い適正な運用について確認を行った。											
			サル	追い払い実施	1回	-	-	-												
			カワウ、サギ類	追い払い実施	10回	-	-	-												
			サル	モンキードッグ運用講習会	1回	-	-	-	サルに発信器を取付け群れの行動について調査した。											
		H27	サル	サル群追跡調査	年間	-	-	-												
			サル	サル捕獲調査	年間	-	-	-												
			サル、シカ、イノシシ	指導者の育成	4人	-	-	-	サル、カワウなどの追い払いを行い被害軽減に努めた。											
		H28	サル	モンキードッグ運用講習会	1回	-	-	-												
			カワウ、サギ類	追い払い実施	10回	-	-	-	研修会に参加し、実施隊員の対策技術の向上に努めた。											
サル、シカ、イノシシ			指導者の育成	2人	-	-	-													
神山町 黒河集落	H26	サル、シカ、イノシシ	ワイヤーメッシュ柵+電気柵の複合柵	L=1,560m	黒河集落代表 中西富士男	H27.3.30	100%	サル、シカ(柑橘類)、イノシシ(水稲など)による被害が減少した。												
		サル、シカ、イノシシ	ワイヤーメッシュ柵+電気柵の複合柵	L=1,390m	栗生野集落代表 栗飯原充志	H27.3.30	100%	サル、シカ(柑橘類)、イノシシ(水稲など)による被害が減少した。												
神山町 寺久保集落	H26	サル、シカ、イノシシ	ワイヤーメッシュ柵+電気柵の複合柵	L=1,200m	寺久保集落代表 木本史幸	H27.3.30	100%	サル、シカ(柑橘類)、イノシシ(水稲など)による被害が減少した。												
神山町 猪ノ頭集落	H27	サル、シカ、イノシシ	ワイヤーメッシュ柵+電気柵の複合柵 ワイヤーメッシュ柵 電気柵5段 ネット柵	L=340m L=160m L=320m L=980m	猪ノ頭集落代表 藤本	H28.3.27	100%	サル、シカ(柑橘類)、イノシシ(水稲など)による被害が減少した。												
神山町 江田集落	H28	サル、シカ、イノシシ	ワイヤーメッシュ柵+電気柵の複合柵 ワイヤーメッシュ柵 電気柵4段	L=3,500m L=500m L=600m	江田集落代表	H29.3.26	100%	サル、シカ(柑橘類)、イノシシ(水稲など)による被害が減少した。												

5 第三者の意見 意見者:徳島県立農林水産総合技術支援センター 資源環境研究課長 辻雅人

コメント	シカ、イノシシ、サルについては、防護柵の設置や捕獲、追い払い等により被害が減少しており、対策の効果が表れている。指導者の育成やモンキードッグ運用講習会の開催などの取組も評価できる。引き続き、対策の実施により被害の減少を期待する。
------	--

④板野町

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額				被害面積					
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率		
板野町有害鳥獣対策協議会	川端	H27	サル	大型捕獲檻	1基	協議会	H27.11.30	100%	捕獲檻により、サル1頭捕獲	459千円	406千円	432千円	51%	0.36ha	0.32ha	0.32ha	100%	大型捕獲檻を整備しサルの群れ捕獲を試みたが、①近隣市町での捕獲 ②群れの出没減少 などにより、捕獲実績としては1頭であった。 なお、「8頭ほどの群れが大型捕獲檻から逃亡した様子」や「カラスによりエサが食べられたこと」について、遠隔監視録画機材を設置したことで確認することができ、その後の対応に役立つことが出来た。 被害額は小さいところで推移しているものの、群れの出没情報も時々あることから、今後も引き続き群れ捕獲を継続する必要	被害防止計画の被害面積について目標を達成している。被害金額については目標を達成できなかった。サルの被害防止の達成率が低く、今後も、捕獲及び有害鳥獣を寄せ付け集落環境づくりに関する被害の減少に努める必要がある。
	川端	H27	サル	遠隔監視録画機材	1基	協議会	H27.12.2	100%	サルの行動分析										

5 第三者の意見 意見者:農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 吉田 洋

コメント	町単事業によりイノシシによる水稲の被害が減少した点は、評価できると考える。しかし減少したとはいえ被害は発生し続けているため、引き続き檻の整備と加害個体の除去を継続することが重要と考える。サルの被害については、捕獲のみで被害を減らすのは困難である。果樹への被害が多いことから、果樹園にサルに対応した防護柵を整備するとともに、サルに農業残渣や収穫適期を過ぎた作物を食べられないよう、誘引物を除去することが、最優先の課題と考える。
------	--

⑤上板町

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額				被害面積					
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率		
上板町有害鳥獣対策協議会	全域	H25	イノシシ、	協議会の開催	1回	—	—	—	関係機関との連携が密になり、より正確に被害や個体数の情報を収集することができた。	6,803千円	4,224千円	5,650千円	45%	2.76ha	1.53ha	3.22ha	0%	継続して捕獲活動を行うことで、被害の軽減はできている。今後は被害面積についても軽減できるように引き続き捕獲と追い払いに注力していく。  イノシシについて捕獲圧を上げたことによって、被害軽減できていた地区へ再度の被害が出ていたが、既存の設置柵を活用した再度の防護柵の設置によって被害の低減はできている。  サルについて追い払いを中心に活動を行ったことで、被害額については低減できた。追い払いの結果として被害面積が広がっているが、さらに活動を続けることで定着を防ぎ、被害面積についても低減に努める。  カラスについては銃を用いた捕獲を推進したことで被害は減少した。引き続き捕獲を行っていくことで被害の低減に努める。  ヒヨドリについては、集中的に捕獲を行ったことで被害や被害面積の両方を低減できている。  既存の設置の地区において防除できていたところが再度被害に遭うようになったために追加で施行した形となった。、今後の地域でもそういった所は増えてくると思われるため、引き続き防除していきたい。	
		H26	サル、カラス、ヒヨドリ	協議会の開催	1回	—	—	—											
		H27	ドリ	協議会の開催	1回	—	—	—											
		H28	イノシシ、カラス、サル、ヒヨドリ	協議会の開催	1回	—	—	—											
		H25	鳥獣全般	従事者用装備品の購入	1式	猟友会管理	H26.3.31	100%											捕獲檻の整備により4年間でイノシシ :226頭 サル :27頭を捕獲した。
		H26	イノシシ	くくり罠用資材の購入	1式	猟友会管理	H27.3.31	100%											
			鳥獣全般	センサーカメラの導入	1台	協議会事務局が管理、上板町猟友会へ貸し出し	H27.3.31	100%											
		H27	イノシシ	捕獲檻の導入	イノシシ用1基	協議会事務局が管理	H28.3.31	100%											
			サル	捕獲檻の導入	サル用2基	協議会事務局が管理、上板町猟友会へ貸し出し	H28.3.31	100%											
	鳥獣全般		捕獲檻用ICTの導入	一式	協議会事務局が管理、上板町猟友会へ貸し出し	H28.3.31	100%												
	H28	イノシシ、カラス、サル、ヒヨドリ	捕獲用ICTの導入	1回	協議会事務局が管理、上板町猟友会へ貸し出し	H29.3.8	100%												
	大東地区地区 スカイファーム地区	H25	イノシシ	鳥獣侵入防止柵 H=1.0m、 H=2.0m	ワイヤーメッシュ柵 L=1,434m (H=1.0) L=93m (H=2.0)	大東地区 代表者 平山 晶博  スカイファーム地区 代表者 山下益男	H26.3.31	100%	設置箇所におけるイノシシの被害が激減した。(果樹、野菜、水稲)										
	大山畑地区 大山町地区 大東地区 山田原地区 屋敷ノ東地区	H26	イノシシ	鳥獣侵入防止柵 H=1.0m	ワイヤーメッシュ柵 L=2,240m	大山畑地区 代表者 藤原満支  大山町地区 代表者 河野茂  大東地区 代表者 平山 晶博  山田原地区代表者 辰巳 忠  屋敷ノ東地区代表者 安友 卓司	H27.3.31	100%	設置箇所におけるイノシシの被害が激減した。(果樹、野菜、水稲)										
屋敷ノ東地区	鳥獣侵入防止柵 H=1.0m			ネット柵 L=250m	屋敷ノ東地区代表者 安友 卓司	H27.3.31	100%	設置箇所におけるイノシシの被害が激減した。(果樹、水稲)											
大東地区	H27	イノシシ	鳥獣侵入防止柵 H=1.0m	ワイヤーメッシュ柵 L=720m	大東地区代表者 平山晶博	H28.3.31	100%	設置箇所におけるイノシシの被害が激減した。(水稲)											
出口地区	H28	イノシシ	鳥獣侵入防止柵 H=1.0m	ワイヤーメッシュ柵 L=550m	出口地区 代表者 岩野由資	H29.3.31	100%	設置箇所におけるイノシシの被害が減少した。(水稲、野菜、果樹)											

5 第三者の意見 意見者:徳島県立農林水産総合技術支援センター 資源環境研究課長 辻雅人

コメント	事業を実施することで、被害が減少していた地区での被害が再発するのであれば、地域全体で鳥獣の個体数や被害の情報を共有したうえで対策を行う必要があると考える。既存の侵入防止柵のメンテナンスも十分に行い、被害拡大防止に努めて欲しい。
------	---

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価		
										被害金額			被害面積						
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値			実績値	達成率
阿波市有害鳥獣捕獲対策協議会	全域	H26	イノシシ サル シカ カラス	協議会総会 猟友会会長会	1回 3回	-	-	-	関係機関との連携が密になり、より正確に被害や個体数の情報を収集することができた。	3,050千円	2,260千円	2,874千円	22%	1.6ha	1.15ha	2.04ha	0%	被害防止計画の被害軽減目標は達成できなかった。イノシシ以外の獣種では取り組みの効果がみられるが、イノシシの被害額、被害面積が大きく増加している。今後、捕獲と侵入防止柵の設置や環境整備などの取り組みを組み合わせ、被害額低減、被害面積の拡大防止に取り組む必要がある。	
		H27	イノシシ サル シカ カラス	協議会総会 猟友会会長会	1回 3回	-	-	-											
		H28	イノシシ サル シカ カラス	協議会総会 猟友会会長会	1回 3回	-	-	-											
	全域	H26	イノシシ	捕獲檻の導入	4基	協議会事務局阿波市が管理、各猟友会へ貸し出し	-	-	-	捕獲檻の整備により3年間でイノシシ 150頭を捕獲した。	3,050千円	2,260千円	2,874千円	22%	1.6ha	1.15ha	2.04ha	0%	ワナ整備により捕獲圧を上げることによって、捕獲数の増加に効果があった。今後も継続して実施する。
		H27	イノシシ	捕獲檻の導入	2基	協議会事務局阿波市が管理、各猟友会へ貸し出し	-	-	-										
		H28	イノシシ	捕獲檻の導入	4基	協議会事務局阿波市が管理、各猟友会へ貸し出し	-	-	-										
	全域	H26	イノシシ サル カラス	追い払い用ロケット花火の配布や対策相談。被害箇所へのハコワナの設置。(行政随時捕獲)	随時	-	-	-	有害鳥獣の対策相談を実施することにより、被害防止のための取り組みについて相談者に周知することができた。	3,050千円	2,260千円	2,874千円	22%	1.6ha	1.15ha	2.04ha	0%	追い払い用ロケット花火や爆竹を配布することにより、特にサルによる被害の軽減につながった。	
		H27	イノシシ サル カラス			-	-	-											
		H28	イノシシ サル カラス			-	-	-											
	秋月地区 蛭子北	H26	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=600m	秋月地区代表者 宮島 桂三	H26.8.22	100%	導入後同地区よりイノシシによる被害報告なし。	3,050千円	2,260千円	2,874千円	22%	1.6ha	1.15ha	2.04ha	0%	導入後同地区よりイノシシによる被害報告なし。効果を持続するために、住民が主体となってメンテナンスを継続する。	
	浦池地区 西				L=270m	浦池地区代表者 増田 英二	H26.8.22	100%											
	上喜来地区				L=480m	上喜来地区代表者 飯領田 明	H26.8.22	100%											
	尾開地区				L=1,000m	尾開地区代表者 小川 欣美	H26.8.22	100%											
	桜ノ岡地区	H27	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=2,000m	桜ノ岡地区代表者	H27.7.25	100%	導入後同地区よりイノシシによる被害報告なし。	3,050千円	2,260千円	2,874千円	22%	1.6ha	1.15ha	2.04ha	0%	導入後同地区よりイノシシによる被害報告なし。効果を持続するために、住民が主体となってメンテナンスを継続する。	
	長峰地区				L=600m	長峰地区代表者 佐古 昭	H27.7.25	100%											
	日吉地区	H28	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=450m	日吉地区代表者 近藤 ヒサコ	H28.6.24	100%	既に整備した地区同様、イノシシの被害の減少が見込まれる。	3,050千円	2,260千円	2,874千円	22%	1.6ha	1.15ha	2.04ha	0%	既に整備した地区同様、イノシシの被害の減少が見込まれる。	
	平地地区				L=550m	平地地区代表者 滑田 久夫	H28.6.24	100%											
	谷口地区				L=1,200m	谷口地区代表者 正木 孝幸	H28.6.24	100%											
	北原地区				L=800m	北原地区代表者 宮本 正治	H28.6.24	100%											
	秋月地区 観音				L=500m	秋月地区代表者 宮島 佳三	H28.6.24	100%											
	金清地区				L=200m	金清地区代表者 近藤 正多嘉	H28.6.24	100%											
大久保地区	L=1,400m				大久保地区代表者	H28.6.24	100%												
全域	H27	イノシシ(成獣)	有害捕獲	401	-	-	-	H26年度のイノシシ捕獲頭数は、成獣、幼獣合わせて、阿波市過去最高の558頭を記録した。ICTを導入したH27年度も高い数値となっており、捕獲檻を導入の効果が出た。	3,050千円	2,260千円	2,874千円	22%	1.6ha	1.15ha	2.04ha	0%	イノシシについては、捕獲檻やICTの導入により、捕獲頭数が増加している。しかし、現状は、被害額の減少につながっていないため、引き続き捕獲や防除体制を整えていく必要がある。  サルによる被害相談が増加しており、対策としてH28年度より県から貸与された大型捕獲檻を導入した。数頭まとめて捕獲が可能であり、効率的な捕獲が期待できるため、今後も継続して活用し、農作物等の被害減少につなげる。		
		イノシシ(幼獣)		42	-	-	-												
		サル(成獣)		30	-	-	-												
		サル(幼獣)		0	-	-	-												
		シカ(成獣)		43	-	-	-												
		シカ(幼獣)		6	-	-	-												
		カラス		300	-	-	-												
全域	H28	イノシシ(成獣)	有害捕獲	279	-	-	-	有害鳥獣捕獲従事者の育成のため、市の狩猟免許取得支援助成金等の狩猟に関する周知を行い、狩猟者の確保を目指す。	3,050千円	2,260千円	2,874千円	22%	1.6ha	1.15ha	2.04ha	0%			
		イノシシ(幼獣)		14	-	-	-												
		サル(成獣)		28	-	-	-												
		サル(幼獣)		1	-	-	-												
		シカ(成獣)		55	-	-	-												
		シカ(幼獣)		0	-	-	-												
		カラス		135	-	-	-												

5 第三者の意見 意見者:農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 吉田 洋

コメント	サルについては、花火や爆竹による追い払いと捕獲により被害が減少しており、対策の効果が表れている。イノシシについては、被害面積・金額とも大幅に増加しており、その原因についての分析が必要と考える。対策実施地区で被害が増加したのか、未実施地区で新たに被害が発生したのか。捕獲数の減少が影響していないか等。事業を継続するうえで重要である。
------	---

⑦阿南市

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額				被害面積					
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率		
阿南市	全域	H27	シカ(成獣)	有害捕獲	500	-	-	-	シカの捕獲数は毎年約500頭捕獲できているが、それを上回る出生や、被害の内容が酷くなることにより、被害額が大きくなっている。 サルは、捕獲圧がかかっている地域では被害の程度が軽かった。捕獲圧がかかっていない地域において、重点的に被害を受け、被害面積は減ったが、被害額は増加した。 イノシシは、捕獲頭数こそ少ないものの、侵入防止柵の普及等により、水稲を中心に被害が軽減した。	7,092千円	3,700千円	7,270千円	0%	6.8ha	1.9ha	14.65ha	0%	各有害鳥獣の捕獲頭数にブレ幅はあるが、例年安定した捕獲ができている。 局地的な被害があるサルについて、捕獲圧がかかっている地域では被害が少なかったことから、捕獲の効果は表れている。 被害面積は減少傾向であるが、被害金額は減少していないことから、引き続き捕獲体制の拡充を図る必要がある。	被害防止計画の被害軽減目標は達成できなかった。 達成率は不十分であるが、イノシシによる被害は減少しており、取り組みの効果が出てきている。 一方で、シカ、サルによる果樹の被害が増えており、今後、捕獲と侵入防止柵の設置や環境整備などの取り組みを組み合わせ、被害低減に取り組む必要がある。
			サル(成獣)		60	-	-	-											
			イノシシ(成獣)		298	-	-	-											
	全域	H28	シカ(成獣)	500	-	-	-												
			サル(成獣)	80	-	-	-												
			イノシシ(成獣)	190	-	-	-												

5 第三者の意見 意見者:農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 吉田 洋

コメント	防護柵の設置により、イノシシの被害が減少しているのは、評価できる点だと考える。ただし被害が減少したとはいえ、未だ被害額・面積ともに高水準で推移しているため、防護柵の設置を通して、さらに被害を減らしていくことを期待する。被害が増加したシカとサルについては、捕獲のみで被害を減らすのは困難である。両種とも路地の果樹被害が多いことから、果樹園において、サルやシカに対応した防護柵の整備を進めることが、最優先の課題と考える。
------	--

⑧那賀町

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額				被害面積					
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率		
那賀町鳥獣被害対策協議会	那賀町木沢地区 那賀町木頭字はまかわち1-2	平成27年度	ニホンジカ イノシシ	処理加工施設備品購入	冷凍庫1台 プレハブ冷蔵庫1台 真空包装機1台 ショックフリーザー1台	指定管理者四季美谷温泉	平成28年4月	営業日数68日	平成28年度97頭処理 冷蔵庫等を整備したことにより、一次処理した状態でストックすることができ、1日の処理頭数が増加し、処理時間も短縮することが出来た。	38,640千円	33,290千円	35,590千円	57%	54.95ha	43.17ha	48.43ha	55%	平成28年度はシカの持ち込み頭数が少なく、前年度より処理頭数が減少した。以前は、肉を部位ごとに切り分けないと保管が出来なかったが、プレハブ冷蔵庫等を整備したことにより、一次処理をした状態で保管することが出来るようになり、1日の処理時間の短縮することができた。また、ある程度のシカ肉をストックできるようになった。	被害防止計画の被害軽減目標は達成できなかった。 達成率は不十分であるが、被害金額を概ね達成した獣種も散見され、取り組みの効果が表れている。今後、被害額が大きいサル、シカを中心に捕獲と侵入防止柵の設置や体制整備などの取り組みを組み合わせ、被害低減に取り組む必要がある。
那賀町	那賀町	平成27年度	ニホンジカ(成獣) ニホンジカ(幼獣) イノシシ(成獣) イノシシ(幼獣) サル(成獣) サル(幼獣)	有害捕獲	46頭 0頭 39頭 0頭 36頭 1頭	-	-	-	ニホンジカについては、毎年捕獲数が増加した。イノシシについては、捕獲数が減少しているが、被害金額も減少しているの で捕獲の効果が出ていると思われる。サルについては、民家周辺など捕獲が難しい場所に出没しているため、捕獲頭数が減少している。	-	-	-	-	-	-	-	-	ニホンジカ、イノシシについては、被害金額、面積とも減少している ので、引き続き捕獲、被害防除を進める。サルについては、被害を及ぼす群れが民家周辺に出没しており、銃による捕獲が難しく、また、電気柵等の整備が進んでいないため被害が出ている。そのため、ワナによる捕獲、電気柵の普及を進めていく必要がある。	
那賀町鳥獣被害対策協議会	那賀町	平成28年度	ニホンジカ(成獣) ニホンジカ(幼獣) イノシシ(成獣) イノシシ(幼獣) サル(成獣) サル(幼獣)	有害捕獲	51頭 0頭 14頭 2頭 18頭 4頭	-	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-		
				捕獲事務用品	ホワイトボード等一式	-	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-		

5 第三者の意見 意見者:農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 吉田 洋

コメント	イノシシとシカの被害が減少しているのは評価できる点である。しかし両種とも被害を発生させ続けているため、現在実施している対策をより進めることで、さらに被害を減らすことを期待する。被害が増加したサルについては、実施主体の評価で述べられている対策に加え、住宅地におけるサルの追払いを強化することが重要だと考える。具体的には、サルが出没したら住民が主体的に連携してサルを追払い体制を構築したり、モンキードッグを導入し運用するなどの方法がある。また、住宅地から放任果樹や生ゴミなどの誘引物をなくすことも重要であると考えます。
------	---

⑨牟岐町、美波町、海陽町

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額				被害面積					
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率		
海部郡鳥獣被害対策協議会	海陽町広岡地区他16地区	H26	シカ・イノシシ	鳥獣侵入防止柵H=1.8m	ネット柵 L=2,100m	広岡地区代表者他16名	H27.3.31	100%	整備集落では、シカ・イノシシの被害が減少した。	8,511千円	5,192千円	4,051千円	134%	11ha	6.4ha	5.47ha	120%	整備集落では、シカ・イノシシの被害が減少した。	被害防止計画の被害金額、被害面積ともに目標を上回る実績となっており、目標を達成している。被害対策の効果が表れており、今後も、引き続き対策を行い、被害の減少に努める必要がある。
	海陽町広岡地区	H26	シカ・イノシシ	鳥獣侵入防止柵H=1.8m	金網柵 L= 100m	広岡地区代表者	H27.3.31	100%	整備集落では、シカ・イノシシの被害が減少した。										
牟岐町	牟岐町全域	H27	シカ	有害捕獲	387	-	-	-	シカは捕獲頭数が増加しているが、サルの捕獲頭数は減少傾向にある。イノシシの捕獲頭数は毎年平均的に推移しているが、被害額は減少傾向にある。	8,511千円	5,192千円	4,051千円	134%	11ha	6.4ha	5.47ha	120%	整備集落では、シカ・イノシシの被害が減少した。	被害防止計画の被害金額、被害面積ともに目標を上回る実績となっており、目標を達成している。被害対策の効果が表れており、今後も、引き続き対策を行い、被害の減少に努める必要がある。
			イノシシ		86	-	-	-											
			サル		67	-	-	-											
	牟岐町全域	H28	シカ	444	-	-	-												
			イノシシ	61	-	-	-												
			サル	76	-	-	-												
美波町	美波町全域	H27	シカ	有害捕獲	888	-	-	-	シカ、イノシシは捕獲頭数が増加しているが、サルの捕獲頭数は減少傾向にある。イノシシによる被害額は減少している。	8,511千円	5,192千円	4,051千円	134%	11ha	6.4ha	5.47ha	120%	整備集落では、シカ・イノシシの被害が減少した。	被害防止計画の被害金額、被害面積ともに目標を上回る実績となっており、目標を達成している。被害対策の効果が表れており、今後も、引き続き対策を行い、被害の減少に努める必要がある。
			イノシシ		375	-	-	-											
			サル		102	-	-	-											
	美波町全域	H28	シカ	941	-	-	-												
			イノシシ	258	-	-	-												
			サル	105	-	-	-												
海陽町	海陽町全域	H27	シカ	有害捕獲	712	-	-	-	H26～H27は、捕獲数増えているが、H27～H28は、捕獲数が減っている。	8,511千円	5,192千円	4,051千円	134%	11ha	6.4ha	5.47ha	120%	整備集落では、シカ・イノシシの被害が減少した。	被害防止計画の被害金額、被害面積ともに目標を上回る実績となっており、目標を達成している。被害対策の効果が表れており、今後も、引き続き対策を行い、被害の減少に努める必要がある。
			イノシシ		251	-	-	-											
			サル		119	-	-	-											
	海陽町全域	H28	シカ	620	-	-	-												
			イノシシ	129	-	-	-												
			サル	71	-	-	-												

5 第三者の意見 意見者:農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 吉田 洋

コメント	防護柵の設置により、イノシシとシカの被害が減少しているのは、評価できる点だと考える。しかしながら柵の未整備地域では被害が発生しているため、引き続き柵を整備することが必要と考える。サルについては、捕獲のみで被害を減らすのは困難である。被害をより減少させるためには、防護柵の設置と管理、誘引物(放任果樹、農業残渣、生ゴミなど)除去、追払いに関する普及啓発活動と、防護柵の整備、追払い体制の確立、誘引物除去の実施などが重要であると考える。
------	--

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	都道府県の評価	
										被害金額				被害面積						
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率			
美馬市有害鳥獣被害防止対策協議会	美馬市	H26	イノシシ、サル、シカ、カワウ、ハクビシン	協議会の開催	1回	-	-	-	関係機関との連携が密になり、より正確な被害や個体数の情報を収集することができた。	4,955千円	1,852千円	4,057千円	29%	2.92ha	1.55ha	2.15ha	56%	関係者との連携により、迅速で適切な対応をすることができた。捕獲檻整備により捕獲圧を上げることによって、シカ、イノシシで被害軽減の効果があつた。今後とも継続的に実施する。	被害防止計画の被害軽減目標は達成できなかった。イノシシによる被害は額、面積ともに増加しており、今後とも捕獲と侵入防止柵の設置や体制整備などの取り組みを推進し、被害低減に取り組む必要がある。また、サル、ハクビシン等について、その被害実態の把握に努める必要がある。	
		H27		協議会の開催	1回	-	-	-												
		H28		協議会の開催	1回	-	-	-												
	美馬市	H26	イノシシ	捕獲檻の導入	68基	協議会事務局が管理し、猟友会へ貸与	H27.3.31	100%												
			イノシシ	センサーカメラの導入	68基		H27.3.31	100%												
		カワウ	追い払い	一式	-	-	-		漁協組合が見回り、追い払うことで、カワウの目撃頻度が減った。											
		H27	カワウ	追い払い	一式	-	-	-												漁協組合が見回り、追い払うことで、カワウの目撃頻度が減った。
			イノシシ、シカ	捕獲檻の導入	12基	協議会事務局が管理し、猟友会へ貸与	H29.3.31	100%												
		H28	サル	捕獲檻の導入	6基		H29.3.31	100%												
	美馬市 美馬地区	H26	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=16,174m	美馬市有害鳥獣被害防止対策協議会	H27.3.31	100%	設置箇所においては水稲、野菜等の被害が減少した。											
			イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=51,752m		H27.3.31	100%												
	美馬市 脇地区	H26	シカ	ワイヤーメッシュ柵 H=2.0m	L=500m		H27.3.31	100%												
	美馬市 穴吹地区	H26	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=10,818m		H27.3.31	100%												
			シカ	ワイヤーメッシュ柵 H=2.0m	L=8,696m		H27.3.31	100%												
	美馬市 木屋平地区	H26	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=4,062m		H27.3.31	100%												
			シカ	ワイヤーメッシュ柵 H=2.0m	L=14,808m		H27.3.31	100%												
	美馬市 美馬地区	H27	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=10,000m		H28.3.31	100%												
	美馬市 脇地区	H27	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=14,300m		H28.3.31	100%												
	美馬市 穴吹地区	H27	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=5,760m		H28.3.31	100%												
			シカ	ワイヤーメッシュ柵 H=2.0m	L=5,000m		H28.3.31	100%												
	美馬市 木屋平地区	H27	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=1,360m		H28.3.31	100%												
			シカ	ワイヤーメッシュ柵 H=2.0m	L=7,000m		H28.3.31	100%												
	美馬市 美馬地区	H28	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=7,000m		H29.3.31	100%												
	美馬市 脇地区	H28	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=7,000m		H29.3.31	100%												
美馬市 穴吹地区	H28	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=6,260m	H29.3.31		100%													
		シカ	ワイヤーメッシュ柵 H=2.0m	L=3,500m	H29.3.31		100%													
美馬市 木屋平地区	H28	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵 H=1.2m	L=986m	H29.3.31		100%													
		シカ	ワイヤーメッシュ柵 H=2.0m	L=3,500m	H29.3.31		100%													
美馬市	H27	イノシシ(成獣)	有害捕獲	725	-		-	-	26年度対比で27年度捕獲頭数は、イノシシ345%、シカ295%、サル258%で増加している。また、28年度はイノシシの捕獲頭数は減ったが、シカ、サルは引き続き増加している。											
		イノシシ(幼獣)		104	-		-	-												
		シカ(成獣)		482	-		-	-												
		シカ(幼獣)		29	-		-	-												
		サル(成獣)		127	-		-	-												
		サル(幼獣)		2	-	-	-													
美馬市	H28	イノシシ(成獣)	有害捕獲	414	-	-	-													
		イノシシ(幼獣)		51	-	-	-													
		シカ(成獣)		699	-	-	-													
		シカ(幼獣)		58	-	-	-													
		サル(成獣)		138	-	-	-													
		サル(幼獣)		2	-	-	-													

5 第三者の意見 意見者:農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 吉田 洋

コメント	イノシシとシカについては、捕獲圧を上げることは重要であるが、それだけでは被害地域の拡大を防ぐのは困難である。防護柵自体は有効に機能していることから、新たに被害が拡大した地域において、柵を整備することが急務と考える。
------	---

⑪三好市

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	都道府県の評価	
										被害金額				被害面積						
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率			
三好市鳥獣被害防止対策協議会	全域	H26	シカ、サル、イノシシ、スズメ、ヒヨドリ、ハクビシン、アライグマ	協議会総会の開催 各地区猟友会との捕獲調整会議	3回	-	-	-	関係機関との連携を密にすることにより、効率的な情報収集、捕獲活動が実施できた。	19,120千円	15,810千円	8,844千円	310%	6.07ha	4.98ha	4.57ha	138%	緊密な連携を図ることができ、迅速かつ適切な対応ができた。 捕獲檻の導入により捕獲圧を上げ、容易に移動可能な檻を選定したので、被害があったところに迅速に対応できるようになった。  設置後も定期的に点検しメンテナンスを行っており、侵入されたかしょは迅速に補修し効果を上げている。  有害鳥獣の捕獲数は年々増加傾向であるが、依然被害はある、引き続き捕獲や防除体制を整えていく必要がある。	被害防止計画の被害金額、被害面積ともに目標を上回る実績となっており、目標を達成している。被害対策の効果がでており、今後も、引き続き対策を行い、被害の減少に努める必要がある。	
		H27			3回	-	-	-												
		H28			3回	-	-	-												
	全域	H26	シカ、サル、イノシシ、スズメ、ヒヨドリ、ハクビシン、アライグマ	有害鳥獣捕獲要員の雇用 サル用捕獲檻の導入 研修会の開催	2名6か月 10基 1回	協議会事務局三好市が管理、市内猟友会に貸し出し	H27.3.31	100%	捕獲要員を雇用し積極的な捕獲を実施245頭を捕獲。 サル用の捕獲檻を購入し各猟友会に貸し出し捕獲圧を上げた。											
	馬路集落	H26	イノシシ	鳥獣侵入防止柵 H=1.2m	ワイヤーメッシュ柵 2.3km	馬路集落代表者 藤本 光広	H26.12.4	83%	柵の設置により被害が激減、安定した収穫が見込めるようになった。											
	馬路集落	H26	イノシシ	ICT捕獲檻購入	2基	馬路集落代表者 藤本 光広	H26.12.4	83%	防護と捕獲を合わせて実施、効果を上げている。											
	全域	H27		有害捕獲	イノシシ(成獣)	451	-	-	-											捕獲頭数は年々増加傾向にある、被害軽減が見られるが依然として被害はあり継続した捕獲が必要。
					イノシシ(幼獣)	65	-	-	-											
					シカ(成獣)	2,187	-	-	-											
					シカ(幼獣)	48	-	-	-											
					サル(成獣)	198	-	-	-											
	サル(幼獣)	9	-	-	-															
全域	H28		有害捕獲	イノシシ(成獣)	692	-	-	-												
				イノシシ(幼獣)	102	-	-	-												
				シカ(成獣)	2,655	-	-	-												
				シカ(幼獣)	53	-	-	-												
				サル(成獣)	277	-	-	-												
サル(幼獣)	13	-	-	-																

5 第三者の意見 意見者:農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 吉田 洋

コメント	捕獲要員の雇用、猟友会との緊密な連携、研修会の開催、防護柵の整備、定期的な防護柵のメンテナンスなど、様々な対策を工夫して実施したことにより、被害が減少したと評価する。減少したとはいえ、未だ被害が発生し続けているため、これらの対策を継続して実施することが重要と考える。
------	---

⑫東みよし町

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	都道府県の評価								
										被害金額				被害面積													
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率										
東みよし町有害鳥獣被害防止対策協議会	全域	H26	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、	協議会の開催	1回	-	-	-	関係機関との連携が密になり、より正確に被害や個体数の情報を収集することができた。 捕獲檻を導入することで、被害が発生した地区に対して、檻の設置が迅速にでき、被害減少に繋がった。 講習会で新たに3名の狩猟者を育成した。 追い払い講習会を実施することで、集落での効果的な追い払い、今後の被害防除の方法について学んだ。  捕獲頭数が2頭だった為、目に見える被害低減には至らなかった。 捕獲頭数が32頭だった為、被害は低減されると思われたが、前年度と比べて大きく増加した。	2,920千円	740千円	1,410千円	69%	2.14ha	0.5ha	0.67ha	90%	関係者との連携により、被害情報に対して迅速で適切な対応ができた。 檻の整備により、捕獲数が増え被害軽減に繋がった。 狩猟免許受講費補助により、3名の狩猟者を育成。今後も狩猟免許取得者の増員につながるようしていきたい。 捕獲のみではなく、追い払いについて集落単位で学ぶことによって鳥獣を寄せ付けない集落づくりができた。	被害防止計画の被害面積について目標をおおむね達成している。被害金額については目標を達成できなかった。被害対策の効果がでていないものの、サルの被害防止の達成率が引く。今後も、捕獲及び有害鳥獣を寄せ付けない集落環境づくりにおける被害の減少に努める必要がある。								
		H27	カラス、	協議会の開催	1回	-	-	-																			
		H28	タヌキ、	協議会の開催	1回	-	-	-																			
	全域	H26	イノシシ	捕獲檻の導入	5基	東みよし町有害鳥獣被害防止対策協議会が管理、三好地区猟友会・三加茂地区猟友会へ貸し出し。	H26.12.16																				
																					イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、カラス、タヌキ、ハクビシン、アライグマ、カワウ	狩猟免許受講費補助	3名				
	加茂山地	ニホンザル	追い払い講習会	1回	-	-	-																				
	全域	H27		有害捕獲	サル(成獣)	2頭	-	-												-							
					サル(幼獣)	0頭	-	-												-							
	全域	H28		有害捕獲	サル(成獣)	28頭	-	-												-							
サル(幼獣)					4頭	-	-	-																			

5 第三者の意見 意見者:農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 吉田 洋

コメント	サルの被害を減少させるには、捕獲と追い払いだけでなく、柵の整備や集落内の誘引物(放任果樹、農業残渣、生ゴミなど)の除去・管理が重要である。被害をより減少させるためには、防護柵の設置や管理と誘引物除去に関する普及啓発活動と、防護柵の整備が必要であると考える。
------	--



⑬小松島市

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額				被害面積					
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率		
小松島市有害鳥獣捕獲対策協議会	全域	H28	イノシシシカ	協議会の開催	2回	-	-	-	関係機関との連携を図り、より正確な被害、目撃情報を収集することができた。	1,120千円	740千円	2,338千円	0%	0.57ha	0.32ha	0.978ha	0%	関係者との連携により、被害情報に対して迅速で適切な対応ができた。 檻の整備により、捕獲数が増え被害軽減に繋がった。 狩猟免許受講費補助により、3名の狩猟者を育成。今後も狩猟免許取得者の増員につながるようにしていきたい。 捕獲のみではなく、追い払いについて集落単位で学ぶことによって鳥獣を寄せ付けない集落づくりができた。	被害防止計画の被害軽減目標は達成できなかった。達成率は不十分であるが、防護柵を整備した地域では、イノシシによる被害は減少しており、取り組みの効果が出てきている。 ただし、捕獲圧の低い地域では被害が増え、今後、捕獲圧を高める取り組みと、侵入防止柵の設置や環境整備などの取り組みを組み合わせ、被害低減に取り組む必要がある。
	全域	H28	イノシシシカ	技適な発信機の導入	17台	協議会事務局(小松島市)が管理、小松島地区猟友会へ貸出し	H28.11.30	100%	協議会が管理し、猟友会に貸出しを行っている、捕獲檻に設置することにより、見回りの負担を軽減することができた。										
	全域	H28	イノシシシカ	電気止め刺し機材の導入	1基	協議会事務局(小松島市)が管理、小松島地区猟友会へ貸出し	H29.3.21	100%	捕獲個体の止め刺しを安全かつ速やかに行えるようになった。										
	新居見町	H28	イノシシ	鳥獣侵入防止柵 H=1.2m	ワイヤーメッシュ柵 L=4.2km	新居見協議会代表者 武田進	H29.3.20	100%	侵入防止柵設置後は、イノシシによる圃場への侵入は激減した。										

5 第三者の意見 意見者:農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 吉田 洋

コメント	小松島市においては、イノシシによるタケノコへの被害が急増していることから、これに対する対策が急務と考える。イノシシによる被害を防ぐには、防護柵を整備することが有効なことから、効果的な防護柵の設置をより推進し、設置した柵については適切な保守点検をなされることが重要と考える。
------	--

⑬都道府県実施事業

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額				被害面積					
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率		
徳島県	-	H28	-	新技術実証・普及活動 人材育成活動	-	-	-	-	・GPS首輪を用いたニホンザルの群れの行動解析やニホンザルの集落内協働捕獲システム」を実証、スマートフォンを用いた鳥獣監視システムの構築など、これまでに無かった新技術の実証とその普及を図ることで地域における多様な課題の対策に繋がる取組みを充実することができた。 ・県に設置した専門員を核とした地域で鳥獣対策に取り組むリーダーの育成、カワウによる被害軽減研究会の開催やジビエの推進などに継続的に取り組んでいることもあり、今後の地域での効果的な対策の実施に向けた人材の育成とスキルアップが少しづつ進んだものと考えられる。	-	-	-	-	-	-	-	-	これまで、経験や感に頼っていたニホンザルへの対策がGPSを用いた行動解析により、科学的な情報として、関係者間で共有できるようになった意義は大きい。ニホンザルの協働捕獲のマニュアル化や新たな被害情報の収集ツール構築など、鳥獣被害防止対策の選択肢を広げる取り組みは評価できる。 また、継続的な人材育成に加え、カワウ対策やジビエの推進など多チャンネルからの鳥獣被害防止対策への取り組みは、持続的な鳥獣被害対策を講じる上でなくてはならない取り組みだと考える。 今後も、県内の鳥獣被害防止活動における課題を抽出し、より効果的な対策の実施に向け、県としても積極的に取り組んでゆく。	